すること。

(3)　「イメージ豊かに読み深める」とは………

書かれている場面、人物を生き生きと思い描くこととし、本単元においては、主人公「ちいちゃん」や家族に対して、場面の様子や会話文を手がかりに、自分なりの意見や感想がもてるということ。

《本単元の語句指導表》

題材　ちいちゃんのかげおくり　（3年）　語句指導表										
構成	関連語句									具体的な指導
	指示語	接続語	文末	場面の展開	………			情景	難語句	
○家族4人でかげおくりを楽しむ			・〜でした。	出征する前の日		・「かげおくりってなあに。」 ・「まばたきしないよ。」 ・「ななあつ、やあっつ。」 ・「すごうい。」	・「今日の記念写真だなあ。」 「大きな記念写真だ こと」	・目の動きといっしょに白い4つのかげぼうしが、ずうっと空に上がりました。	・目を落としました ・かげおくり ・出征 ・先祖	◇4人の会話文を中心にそれぞれの心情を想像させる。　（ワークシート）
○お父さんの出征	・この町の〜	・けれど	・そうです	つぎの日	・かげおくりをして遊ぶようになりました。		・「体の弱いお父さんまでいくさにいかなければならないなんて。」お母さんがぽつんと〜	・広い空は楽しい所ではなく、こわい所にかわりました。	・しょういだん ・ばくだん	◇「ぽつんと」「楽しい所ではなく、こわい所〜」から、戦争の様子と家族のさみしさを押さえさせる。
○お母さんとはぐれてしまうちいちゃん	・そのおじさんは	・けれど ・でも	・お母さんの声。 （体言止め） ・〜たり〜たり ・でも〜ではありませんでした	夏のはじめのある夜	・ちいちゃんはひとりぼっちになりました。ちいちゃんはたくさんの人たちの中でねむりました。	・「お母ちゃん、お母ちゃん。」 ・「お母ちゃん。」	・「さあ、急いで。」 ・「さあ、ちいちゃん母さんとしっかり走るのよ。」	・〜もう、赤い火があちこちに〜 ・風の強い日でした。 ・風があつくなって〜 ・ほのおのうずが追いかけて〜 ・暗い橋の下には〜	・空しゅうけいほう ・ほのおのうず ・はぐれる	◇「空しゅうけいほう」は音声を聞かせて指導する。 ◇「風のあつい日〜」「ほのおのうず」から戦争の恐ろしさを想像させる。 ◇「はぐれる」は短文作りをしながら理解させる。
○はすむかいのおばさんと家にいくちいちゃん			・どこがうちなのかー。 ・〜ました	朝になりました。	・なくのをやっとこらえて〜。 ・深くうなずきました。 ・また、深くうなずきました。	・「ここがお兄ちゃんとあたしの部屋」		・町の様子はすっかりかわっています。 ・家はやけ落ちてなくなっていました。	・はすむかい	◇{深く}{また、深く}を比較し、そこにこめられたちいちゃんの心情を探る。 ◇「〜やっとこらえて」の言葉集め。 ◇「ー」の持つ意味
○ひとりぼっちで暗い夜を過ごすちいちゃん	・その夜 ・ここ			その夜 くもった朝が来て、昼がすぎ、また、暗い夜がきました。	・少し食べました。 ・こわれかかった暗いぼう空ごうの中でねむりました。 ・ざつのうの中のほしいいをまた少しかじりました。	・「お母ちゃんとお兄ちゃんはきっと帰ってくるよ。」			・ざつのう ・ほしいい ・ぼう空ごう	◇「ざつのう」「ほしいい」「ぼう空ごう」の写真提示 ◇「くもった空」「また暗い夜」から受ける言葉の持つイメージから心情を探る。
○ひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃん				明るい光が顔に当たって、目がさめました。	・暑いような寒いような〜 ・ひどくのどがかわいて〜 ・ふらふらする足をふみしめて ・たった1つのかげぼうしを見つめながら ・	・「まぶしいな。」 ・「とお。」 ・「お父ちゃん。」 ・「お母ちゃん、お兄ちゃん。」	・青い空からふってきました。 ・お父さんのひくい声が、重なって聞こえだしました。 ・お母さんの高い声もそれに重なって聞こえだしました。 ・お兄ちゃんのわらいそうな声も重なって	・いつのまにか、太陽は高く上がっていました。 ・青い空にくっきりと白いかげが4つ。	・ふみしめて	◇「暑いような寒いような」の用例化による語句指導 ◇「たった1つ」「ふみしめて」の語句の意味の指導。「ふみしめて」と「ふむ」を比較させ、気力でかげおくりをしようとしていることを理解させる。 ◇1の場面の「かげおくり」との比較
○空色の花畑の中のちいちゃん		そのとき	・〜ました。 ・見回しても見回しても、花畑。 （体言止め）		・体がすうっとすきとおって、空にすいこまれていくのが分かりました。 ・きらきらわらいだしました。わらいながら、花畑の中を走りだしました。	・「きっと、ここ空の上よ」 ・ああ、あたし、おなかがすいて軽くなったからういたのね。」 ・「なあんだ。みんな、こんな所にいたから、来なかったのね。	・向こうから、お父さんとお母さんとお兄ちゃんが、わらいながら歩いてくる〜。	・一面の空の色 ・空色の花畑の中 ・夏のはじめのある朝、こうして、小さな女の子の命が消えました。		◇「一面の空の色」「空色の花畑の中」の場面の理解（さし絵） ◇「きらきらわらう」とちいちゃんにとって、かげおくりは家族との喜びであったことを押さえる。 ◇「小さな女の子」の意味

Ⅲ　研究の実際と考察

1　検証授業

(1)　研究対象　　3学年

(2)　単元名　　「ちいちゃんのかげおくり」

(3)　本時のねらい（7／12）

ひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃんの様子や願いを読み取ることができる。

(4)　授業の意図

本時は、今まで活用してきたワークシートでの学習がどのくらい児童に身に付いたかどうかを見る授業である。また、学習活動としては、「〜ふってきました」「重なって」などの語句に着目させ、1の場面との違いに気付かせること、さらには「ふらふらする足をふみしめて」「たった一つのかげぼうし〜」「くっきりと白いかげが四つ」などの表現から、本当はたった一人でもちいちゃんの意識の上では家族4人でいることを押さえ、最後まで家族を思うちいちゃんの心情を読み取らせていきたい。

2　授業の実際と考察

(1)　検証の観点

①　本時で使用されたワークシートの内容